

SMP055-P11

会場:コンベンションホール

時間: 5月23日17:15-18:45

## 日高変成帯最上部マイロナイトの構造地質学的解析 – マイロナイトと シュードタキライトの共存について

### Relationships between mylonitization and subsequent pseudotachylyte generation in the upper part of the Hidaka metamorphi

西山 浩平<sup>1\*</sup>, 豊島 剛志<sup>1</sup>

Kohei Nishiyama<sup>1\*</sup>, Tsuyoshi Toyoshima<sup>1</sup>

<sup>1</sup>新潟大・院・自然科学

<sup>1</sup>Graduate School of Science & Technology

日高変成帯北部地域では、上部変成岩の下部および中部トータル岩中において多くの狭長なマイロナイトが広く分布する (Toyoshima et al., 2004)。これらのマイロナイト帯は脆性-塑性遷移帯、または上部地殻の最下部において形成される (Shimada et al., 2004; Toyoshima et al., 2004; Wada, 2006MS)。変成帯南部地域のマイロナイト帯はその面構造に平行にシュードタキライトが形成されている。しかし本研究地域の札内川上流域では、この層平行シュードタキライトがほとんど観られない。このことは本研究地域が変成帯南部地域と異なり、狭長なマイロナイト帯に沿ってシュードタキライトを形成する高速すべりが生じなかったことを示す。したがって、狭長なマイロナイト帯に沿って高速すべり・摩擦発熱がなぜ起こらなかったのか議論する。

キーワード: 狭長なマイロナイト帯, シュードタキライト, 高速すべり, 摩擦発熱

Keywords: thin mylonite zone, pseudotachylyte, seismic slip, frictional melting